

## 児童事例 1 まとめ

### ■ 就学に伴うライフスタイルとライフステージの変化

一郎君の就学に伴い、本人と家族のライフスタイルとライフステージが大きく変わる。その為、あらためて本人と家族の希望や状態をアセスメントした上で、福祉支援やサービスの提供体制を見直すことが必要である。必要に応じて、関係機関から情報収集する等の、二次アセスメントにも積極的に取り組みたい。

### ■ 一郎君の発達特性や特徴を理解すること

一郎君には、対人関係や場面適応に苦手さがあり、就学に伴う生活の変化により、新しい課題やニーズが生じることが予測される。その為、一郎君の発達特性に十分な配慮をした上で、今後の支援の提供体制の検討や、関係機関等への情報の引き継ぎに留意する必要がある。ライフサポートファイルの活用等も検討したい。

### ■ 保護者や家族に対する相談援助の体制を整えること

保護者や家族には、就学後の学校生活や家庭生活に対する不安があり、福祉支援やサービスの利用支援や社会資源に関する情報提供だけでなく、育児や生活に関する相談機会の確保を望んでいる。相談支援の提供の際には、支援サービスの斡旋や調整だけでなく、育児生活相談の提供体制の確保にも十分な留意をしたい。

### ■ 一郎君の将来に関する保護者の漠然とした不安や疑問を受け止めること

保護者や家族は一郎君の特性や状態を好意的に受け止めていて、落ち着いた育児に取り組んでいるものの、今後や将来に向けた漠然とした不安や心配も募らせている。福祉支援やサービスを利用しながら、地域の中でどのように親子、家族で暮らしていけるのかについて、見通しやイメージが持てるような関わりも大切である。

### ■ 家族としての生活課題やニーズにも目配せすること

一郎君の家族は、家族関係は円満で良好ではあるが、母親は第二子の育児も抱えていて、同居祖母の育児や家事への協力が困難になりつつあり、今後は母親の育児家事の負担が大きくなることが予想される。必要に応じて、母親の負担を軽減しつつ、母親の一郎君への関わりが確保出来るよう家庭調整にも取り組んでいきたい。

### ■ 今回の事例について

今回のケースでは、就学後の学校生活の不安に対して保育所等訪問支援、放課後や休校日の日中生活の支援のために放課後等デイサービス、学校担任との連携体制の確認、保護者と家族への育児生活相談の体制確保を図りながら、一郎君の健やかな発達成長と、家族の地域生活の継続を目指した総合計画の作成に取り組んでいる。